

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

東京都北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音・撥音・助詞などの表記の仕方を理解させ、正しく書けるようにすることがまだ十分である。 ・発問や質問に対する適切な答えができるように、先生や友達の話をよく聞く練習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語だけでなく他教科にでも「書く」活動を意図的に計画し、繰り返し行うことで、基礎的な力を定着させる。 ・学習内容に応じて、個別の支援を行い学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や朝学習等で繰り返し練習をする。 ・復習や宿題を一緒に取り組んでもらうように、家庭の協力を仰ぐ。 ・学力パワーアップ講師等による個別指導や補習を行い、授業時間内の理解を目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」「見たことをもとに発表する」「文章を書く」の項目が低い。 ・様々な文章に触れ、語彙を増やしていく指導が必要である。 ・話す、聞く態度をしっかりと身に付けさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読書の時間を確保し、言葉に触れる機会を増やす。 ・言葉集めなどの活動をゲーム感覚で行い、語彙を増やす。 ・短い文章で出来事をまとめ、発表する活動を定期的に行い、文章を書くことへの抵抗を減らしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字は小テストや再テストを行い、定着を図る。 ・学力パワーアップ講師等による個別指導や補習を行い、授業時間内の理解を目指す。 ・朝学習や宿題等で反復する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「文章を書く」「話を聞く」の項目が低かった。解答状況一覧を見ると、無回答の割合が多く、時間内に終わることができなかったことが考えられる。また、「話を聞く」では、日常的に必要な情報を正しく聞き取る力を、生活の中で身に付ける必要があると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字制限や時間制限を設けて文章を書かせることで、時間内に必要なことを書ききる力を身に付けさせる。 ・話を聞くでは、正確に情報を把握する力を身に付けさせるために、伝えたことを確認のために言わせたり、大切なことはメモをするよう習慣づけたりと、日常生活の中でも指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の後に感想を書かせたり、授業後に感想を書かせたりと、様々な場面で書く機会を増やしていく。 ・耳からの情報が入りにくい児童は、特にメモの仕方を指導し、社会科見学や、普段の連絡事項などもメモをとることで、視覚的に理解できるようにしていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・「文章を書く」ことは、ポイントが高いのに、「調べたことをもとに文章を書く」は伸びが低い、文章の構成を考えたり、情報と情報の関係を捉えることの力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えの根拠として、叙述を基に捉えることを授業内で意識して取り組み、文の構成や語順を理解することによって、文章を正しく理解することにつなげる。また、その情報と情報との関係について理解し、自分の考えを明確にして書く学習を多く取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題をきちんと捉え、自分の考えを表現できるように、伝え合い活動を取り入れ、表現する場を多く設定していく。また、「はじめ」「中」「おわり」や、各段落とのつながりが明確化できるよう、掲示物等を活用しながら指導する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き取りについては、国語に限らず普段の学習の様子からも、ひらがなで表記することが多く、指導の工夫が必要である。 ・文の構成を学習する際には、言葉の意味や語順を捉えさせ、語彙を増やして正しく読み書きできるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を学習する際に、ゲーム感覚でひらがなを漢字に変換させる体験や聞き取ったことを既習漢字を使って表記するなどの反復練習によって定着を図る。 ・文の構成や語順を理解することによって、文章を正しく読み取り、理解することにもつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士で問題をつくり合うなど、主体的に学習に関わり、言葉や漢字に興味をもつことができる活動を行う。 ・学習から一定時間が経った後に復習の機会を設ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の学習」「文章を書く」項目で、正答率が低かった。文章を書く問題では、条件に合っていなかったり、無回答であったりする割合が多かったため、時間内に終わることができなかったことが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語や和語・漢語等言葉の学習を適宜復習していく。 ・報告する文章では、正答率が高くなっている。条件に合うように自分の意見を書く力がまだ十分でないため、その力を高める学習を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞かれていることを捉え、自分の考えを時間内にまとめられる場面を多く設定していく。 ・友達の文章を読み合う活動を取り入れ、どのように書くと相手に伝わりやすくなるか工夫できるようにする。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・時期によっては、行事と重なってしまい、学校のまわりの様子など実際に見ることができなかった。資料のみの提示となり、十分な理解につなげられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Googl eearthやデジタル教科書等のICTを十分に活用し、理解を深められるようにする。 ・スーパーマーケットや工場見学など、なるべく実際に見学することができるよう計画を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で見学に行くことが難しいときには、出前授業を実施し、実際に働いている人の話を聞ける機会を設ける。 ・視覚的に分かりやすい映像資料や教材を集め、児童の興味関心を高めていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・47都道府県の特徴について調べ、まとめる時間が十分にとれなかった。 ・単元テストの結果から、地図や統計資料から情報を読み取りの習熟が不十分であると考えられる。授業で、資料の提示のみとなり、十分な理解につなげられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・eライブラリを使用して知識の定着を図る。国語と合科とし指導時間を捻出し、都道府県の特徴について学習を進めていく。 ・導入で資料の読み取りを行ったり、授業の資料を配って個人での読み取りを行ったりして、読み取りの技能が高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着のため、夏休みや朝学習の時間を使って進めていく。都道府県の特徴を使ったカルタ作りを取り入れ、楽しみながら知識を身に付けられるようにしていく。 ・教科書だけでなく、児童の学習の補助となる資料を積極的に活用していく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害からくらしを守るについては、実生活を振り返る学習や場面が少なかったと考えている。 ・資料を読み取る活動は、何が正しく読み取れて、そこからどんなことが考えられるのか、明確にしながら指導する必要があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に合わせて、児童の実生活の中で、様々な地域との結び付きや多くの人々との関わりを踏まえた上で、課題解決ができるような授業を展開していく。 ・どの資料から読み取ったことなのか明確にしたり、そこから考えたことを区別したりしながら探求学習を展開していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活を想起させながら課題解決を行い、解決したことへの実感を得られるような学習計画を立てる。 ・タブレットを活用して資料に多く触れたり、児童同士で学びを共有したり、様々な観点からの意見や考えを受け入れながら、学習を深めていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・内容別、観点別結果から、資料を読み取ること、事象についての理解や用語の理解が定着できていなかったと考えられる。また、内容によっては十分に学習内容を深めることができなかったことも考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集、地図帳等の資料や動画教材等を活用し、事象と用語を結びつけ体系的に理解できるようにしていく。また、調べ学習を行った後に、大切な用語や概念を確認していくことで、知識の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した用語をお互いに説明し合う時間を設けたり、適切なタイミングで社会科見学を設定することで知識の習得を図る。 ・発展的に動画教材等を取り入れたり、体験学習を行うことで学習意欲を高めていく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりや繰り下がりのない足し算や引き算に指やブロックを使って考える児童がいるので、個別の手立てが必要である。 ・文章題の理解ができず、立式できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題のどこにつまずくかをあらかじめ予想し、丁寧に指導する。 ・具体物を活用しながら、学習の理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や朝学習などで繰り返し行い、定着を図る。 ・家庭と連携を取り、学力を高めるために協力を仰ぐ。 ・理解の早い児童には、プリントで活用問題に取り組みさせる。 ・学力パワーアップ講師による個別指導や補習を授業内や朝の時間に行い、基礎学力の定着を目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・内容別、観点別の結果から、基礎基本的な力を身に付ける指導はできている。 ・日常的に扱う計算問題より、「表やグラフ」、「形」、「文章問題を作る」、などが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作する活動を取り入れる。 ・「問題作り」など、個人差が大きい学習では、能力や理解度に応じて個別の支援を行う。 ・扱いが少ない単元は、定期的に宿題等で反復する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力パワーアップ講師等による個別指導や補習を行い、基礎基本の定着を目指す。 ・朝学習や宿題等で反復する。 ・eライブラリを活用し、個人差に対応する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・内容別、観点別の正答率を見ても、基礎基本的な力は身に付ける指導はできている。 ・内容別にみると、「たし算・ひき算」の繰り上がり・繰り下がりのある計算は目標値を若干下回っており、苦手である児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算練習の時間を授業中に取り入れる。 ・自分の考えたこと、学んだことを文章や式にする活動を、算数の授業全体を通して取り組んでいき、学習内容を言語化することができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解度に応じて、個別の支援を行う。 ・eライブラリを活用し、既習の学習内容を振り返り、学習を積み上げる。 ・学習したことを使った問題作りを行い、より学習に対する理解を深めていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・どの問題でも、正答率が目標値・区平均を越えており、基礎基本的な力を身に付ける指導はできている。 ・計算はできているが、計算結果をもとにして答えを考える力をより身に付けていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや学んだことを式や言葉で表現する活動を、算数の授業全体を通して取り組む。 ・学習内容の理解度に応じて、個別の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解度に応じて、個別の支援を行う。 ・理解の早い児童には、活用問題に取り組みさせる。 ・学力パワーアップ講師による個別指導や補習を授業内や朝の時間に行い、基礎学力の定着を目指す。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を正確に作図したり角度を読み取ったりすることに課題がある。作図等の技能を身に付けるために、継続的に反復練習を行う機会を設ける必要がある。また、作図をした後に自分でも長さや角度を測って確かめる習慣をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別の学習や学力パワーアップ講師と連携し、支援が必要な児童に対して、技能習得のための個別的な支援や振り返り、反復練習を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に応じて、既習単元の振り返りの時間を指導計画に取り入れ、実践していく。 ・習熟の時間や家庭学習で繰り返し復習できるように、補充問題や発展問題のプリントを作成し、取り組ませていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフから情報を読み取ったり、理由を自分の言葉で説明したりするといった内容を苦手とする児童が多い。そのことから、計算の方法やグラフから読み取ったことなどを自分の言葉で説明する活動を多く取り入れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童に対しての個別指導を充実させ、基礎的な学力の定着を図る。また、自分の考えを分かりやすく伝える活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決にあたり、図や式、言葉などを用いて、自分の考えを何かしらの方法で表現できるように、友達と考え方を伝え合う時間を確保する。 ・単位量当たりの大きさ、速さ、割合を場面から演算決定できるよう繰り返し演習を行う。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立王子第一小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験に対して、児童自身から課題を見出すことのできる学習活動の工夫が必要である。 ・考察の書き方や意図を十分に理解ができていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入の際は特に、予想と共に体験活動を多く設定し、そこで生まれた疑問をもとに観察や実験を行えるようにする。 ・結果と感想と考察が混ざってしまうため、結果から分かったことを記述できるよう、その都度指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に関連のある情報を日常生活に関連させながら話題にすることで、自分事として物事をとらえ、自ら考えようとする姿勢を高めていく。 ・児童同士で、考察を共有する場面を多く設定し、書き方や考察の書き方の意味の理解を深める。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の際に、根拠のある予想や仮説を考えることが苦手な児童が多い。そのため、既習事項や生活経験をしっかり振り返るなど学習活動の工夫が必要である。 ・活用につなげるための手だてが不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題づくりの際に、既習内容や生活経験と比較できるような活動を多く取り入れる。 ・学習したことと実生活や他の自然現象等と関係付けていく意識をもち、実際に考えようとする意欲をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で根拠のある予想や仮説を考えることが難しい児童は、グループでの話し合いや全体での話し合いを通して、各自の予想をより具体的に実証的なものにする。 ・考察の過程で出された内容や教師の方から紹介する内容について実生活や他の自然現象等に目を向けさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができるようにする指導が十分にできていない。 ・見通しをもって観察、実験などを行うことができるように指導していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変化させる要因と変化させない要因をきちんと区別させながら、解決の方法を発想することができるようにする。 ・観察、実験を始める前に、目的やねらいを必ず確認することによって、見通しをもって行うことができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりに、学んだことを振り返り、新たに得た知識を確認したり、自分の考えが高まったことを実感させたりする。 ・学んだことを学習や生活に生かしていけるように継続的に助言を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって観察、実験などを行うことができるように指導していく必要がある。 ・観察、実験の結果を基に考察を行い、より妥当な考えをつくり出し、表現する力をつけさせる指導が十分にできていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験を始める前に、目的やねらいを必ず確認することによって、見通しをもって行うことができるようにしていく。 ・まずは個人で考え、その後、自分の考えを適切に表現して意見交換を行ったり、根拠を基にした議論を行ったりすることで、より妥当な考えをつくり出せるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりに、学んだことを振り返り、新たに得た知識を確認したり、自分の考えが高まったことを実感させたりする。 ・学んだことを学習や生活に生かしていくように助言したり、中学校の学習内容とのつながりを意識させたりしていく。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（外国語）

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した単語や易しい文法を用いて文章を書くことに課題がある児童が多いため、指導の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった文型に、単語を選択して文章をつくる学習や、単語だけでなく、文章の発音練習を繰り返し行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめで、既習事項を使って短文をつくる学習を取り入れる。 ・ALTとの会話や友達とのインタビューゲームを通して、日常会話に慣れさせる。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・単語やアルファベットの語彙が少なく、文章などの表現を理解させられていない。 ・発表などの表現活動で、上手く発音させられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュカードやゲームを通して、単語の発音練習を繰り返し行う。 ・チャンツやレッツシングを行うことで、発音の練習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初に必ずフォニックスを聞いたり話したりする活動を取り入れ、単語を覚えると同時に、発音の仕方を練習できる時間を設定する。